

第2回那珂市那珂インターチェンジ周辺を核とした活力あふれる まちづくり検討委員会 会議録

1 日時 令和3年1月14日（木）午後1時30分から午後3時20分

2 場所 那珂市役所本庁舎2階 全員協議会室

3 出席者

(1) 委員

国立大学法人茨城大学 人文社会科学部准教授 川島 佑介
株式会社筑波銀行 常務執行役員営業副本部長 渡辺 一洋
株式会社JTB 営業担当課長 山原 一晃
JA常陸 エリアマネージャー 鈴木 頼尚
木内酒造合資会社 企画室 國井 元耶
那珂市商工会 会長 浅川 清司
那珂市観光協会 副会長 大野 進
那珂市まちづくり協議会 会長 平野 道代
芳野地区まちづくり委員会 委員長 檜山 公明
女性ネットワークなか 代表 海野 順子
那珂市PTA連絡協議会 会長 大曾根 香澄
那珂市認定農業者連絡会 会長 石崎 甲一（欠席）
那珂市農業委員会 会長 根本 衛
フェルミエ那珂 代表 綿引 桂太
一般社団法人カミスガプロジェクト 代表 小林 大輔
那珂市地域おこし協力隊 アグリビジネス活性化プロジェクト 入江 紫織

(2) 幹事

総務部長 加藤 裕一
企画部長 大森 信之
市民生活部長 桧山 達男
産業部長 高橋 秀貴
建設部長 中庭 康史

(3) 事務局

政策企画課：課長 益子 学、課長補佐（総括） 岡本 哲也
課長補佐（政策企画グループ長） 橋本 芳彦、主幹 住谷 峻司

4 会議内容

○事務局（益子課長）

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから「第2回 那珂市 那珂インターチェンジ周辺を核とした活力あふれるまちづくり検討委員会」を開会いたします。

会議に入ります前に、1点、お願いがございます。

ご発言の際は、お手元にマイクがございますので、こちらをご使用いただきますようお願いいたします。

このマイクは、発言の際に、「TALK」と書いてある青いボタンを1回押していただきますと、赤いランプがつかみます。赤いランプがつかましたらONの状態になりますので、ご発言いただいて、発言が終わりましたら、もう

1回押していただきますと、OFFに戻りますので、よろしく願いいたします。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

皆様のお手元にお配りしております配布資料でございますが、会議次第、委員名簿、資料1、資料2-1、資料2-2、資料2-3、そのほかに右上に「委員要求資料」と書いてある「道の駅」関係の資料が3種類ございます。過不足等はございませんでしょうか。

○事務局（益子課長）

それでは、次第の2番でございますが、川島委員長よりご挨拶をお願いしたいと存じます。

○川島委員長

委員長を預かっております、川島でございます。

まず、あらためまして新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

委員の皆様にはお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。

前回の検討委員会におきましては、那珂インターチェンジ周辺地域の現状や開発手法のあり方、そして発展の可能性などについて委員の皆様からはそれぞれの立場から多くのご意見を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

本日の協議事項は、前回、概要等をご説明いただきました「アンケート調査の集計結果」や「那珂インターチェンジ周辺の開発の今後の検討方法」などについてご協議いただく予定でございます。

委員の皆様におかれましては遠慮することなく、忌憚のないご意見と活発な議論をお願いしたいと思います。

議論が白熱しても大丈夫なように、換気十分、そしてパーテーションも設置していただきましたので、ご遠慮なくご発言いただきたいと思います。それでは、本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局（益子課長）

ありがとうございました。

それでは、次第の3番、協議内容でございますが、ここからの議事進行は、設置要綱 第5条 第1項の規定により、委員長が議長となることから、川島委員長をお願いいたします。

○川島委員長

ここからは、私が、議事進行を務めさせていただきます。

それでは早速ですが、次第の3番、「協議内容」に入ります。

（1）アンケート調査の集計状況について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（住谷主幹）

（協議内容の（1）アンケート調査の集計結果について、資料1に基づき説明）

○川島委員長

ありがとうございました。

続いて、（2）市の課題及び課題に対して必要となる機能の整理について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（橋本課長補佐（政策企画グループ長））

（協議内容の（2）市の課題及び課題に対して必要となる機能の整理について、資料2に基づき説明）

○川島委員長

ありがとうございました。

続いて、（3）その他でございますが、事前に平野委員から「道の駅」関係の資料要求がございまして、事務局の方で用意していただきましたので、内容について事務局より説明をお願いします。

○事務局（益子課長）

（協議内容の（3）その他について、資料に基づき説明）

○川島委員長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの事務局の説明を踏まえ、意見等ございましたら、自由に発言をお願いします。

○川島委員長

それでは、私の方からお伺いしたいと思います。

1点目ですが、資料1-1の調査結果について、年代別でどのような機能を求めているかというクロスデータは掲載されていますが、例えば20代の方が開発に反対であるとか、そもそも開発の賛成・反対についても年代ごとのデータがもしあれば、教えていただきたいと思います。また、地区別のデータもあれば、あわせて教えていただきたいと思います。

2点目ですが、道の駅の調査の追加資料について、多くが黒字であるという心強いデータである一方、部分的に赤字の施設もあります。赤字になっている道の駅の原因について調査が進んでいるのかということをお教えいただけますでしょうか。

○事務局（益子課長）

まず、アンケートの開発を進めることについてどう思うかという、年齢別構成別のクロス分析のデータについてですが、今手元にございませぬ。申し訳ありません。

もう1つ、県内のいくつかの道の駅において、若干の赤字であるということですが、我々も細かい経営のことについてつかめなところもありますが、ある道の駅については、雇っている方が多く、人件費が負担になっているということが、見た限りで分かったという状況です。

また、令和元年度については、コロナの影響で利用者数が前年から減少しているということもあるのではないかと考えています。この辺りについては、道の駅をやるのであれば、どのような形で指定管理者を考えていくのかということで、赤字にならないような構造・仕組みを検討していきたいと思っています。

アンケートの年齢構成については、すぐには出ないので後日提示させていただきたいと思います。

○川島委員長

資料1-1の調査結果をみると、年齢に偏りがありますので、「開発を進めるべき」、「進めるべきではない」の2つの回答ごとに、クロスデータを提示していただけると良いと思いますので、よろしくをお願いします。

道の駅の件については承知しました。引き続き検討すべきだと思います。

他の委員の方から、何かありますでしょうか。

○山原委員

観光事業者の立場から申し上げますと、物産センターや道の駅というのは歓迎すべき施設だと思います。

今回のアンケート調査結果からも、市内外からの当該施設への期待も大きいというえ、ETC2.0が運用されれば、将来的な利用もさらに高まるのではないかと期待しております。

また、今後具体的な話を詳細に進めていく段階において、特にコロナ終息後は、国内旅行者のみならず、訪日客も意識して検討することも有益ではないかと思ひます。また、検討の際には、全国の道の駅の事例もしっかりと研究していただきたいと思ひます。例えば、年間150万人が利用する道の駅であっても、平均客単価が400円程度で、ソフトクリームとコーヒーだけ購入し、トイレだけ使って帰ってしまう所もあると聞いていますので、果たしてそれが目指すべき形なのか、どのようにしたら目指すべき形に向けて地域らしさを出していけるのかというのを、十分に議論をしていただければ、良いものになるのではないかと思ひます。

○川島委員長

観光面の話がありましたので、大野委員から追加でご説明があればお願いします。

○大野委員

私はどちらかというと内向きに考えています。

現実的に考えると、県外から観光客が来ることをあまり期待しない方がよいと思っています。

那珂市の場合、もう少し内向きに考えたほうがよいと思います。

前回の検討委員の際にも発言したかと思いますが、サッカーや他の競技ができる、市民が使えるような施設であって、なおかつ、市内や市外の若い人が起業できるようなものがよいのではないのでしょうか。

他の市町村の状況を見ますと、約20億円程度の事業費が掛かるようですが、それだけの予算を使うのであれば、市内の方にメリットがある施設を整備した方がよいのではないのでしょうか。

お年寄りが住みやすく、若い人が住みたい、子育てしたいといえるような事業にお金を使うのが、本当のお金の使い方なのではないかと思っています。

20億円という金額は相当大きな金額です。それが氷潰けになってしまったら、大変なことになります。ですので、もう少し内向きに考えて、たまたま県外から来た人が、こういうものがあるということで使えるものをプラスαで考えればよいのではないのでしょうか。内向きと外向きのバランスの考え方が大事だと思います。

玄関口とは言いますが、現実的にはインターチェンジを降りて、それほど利用客が来るとはあまり感じられません。

○川島委員長

ありがとうございます。内容については精査が必要かと思っています。

事務局の方から追加説明があれば、お願いします。

○事務局（益子課長）

仮に道の駅を整備するというのであれば、近隣ですと、常陸太田市の道の駅ひたちおおたは、多くの市民の方が利用されていることもあり、成功しています。

那珂市が、もし道の駅を整備するのであれば、県外の方だけに目を向けるのではなく、まずは市民の方が利用していただいて、喜んでいただける施設でなければならぬと考えています。そこは大野委員がおっしゃるようにバランスが大切だと思っています。

仮に道の駅を検討するという方向になったとすれば、その辺も含め、しっかり検討していかなければならないと考えています。

○大野委員

道の駅という名前にこだわらないで、名前を変えてみたらよいと思います。

○事務局（益子課長）

道の駅も立地する場所によって、市民が多く利用するものになるのか、観光客のウェイトが大きくなるのかは、立地によって変わってくると思います。

○川島委員長

確かにコンテンツ次第というのがありますが、住民の視点からもご意見をいただきたいと思っています。

大曾根委員、あるいは平野委員から、生活者の視点から何かご意見があればいただきたいと思っています。

○大曾根委員

アンケート調査の結果をみると、道の駅を希望する意見が多いということに若干驚きました。

この結果をみると、市民の皆さんは、那珂市の目玉になる施設を求めているのだらうと感じました。

そのような中、生活者として、私だったらどのような施設を利用したいか考えると、買い物をする者の立場として

は、そこでしか買えないものという付加価値が必要だと思えます。

場所によって、例えば、スーパーなどが遠い地域だと、そこで全てを済ませたいという方もいらっしゃるでしょうし、主婦的な考え方からすると、場所によって何を入れるのかというのは必要なのではないのでしょうか。

どうしても、そこで生活する者からすると、自分達の生活のことを第一に考えてしまいます。

市内の方が行くのであれば、便利なもの、外に行かないと買えないものが買えるとか、外に行かないと体験できないものが体験できるとか、そういったものでないと市内に住んでいる方は利用しないのではないかと思います。

○平野委員

アンケート調査の結果を見て、市民の中でも道の駅のような施設を希望している方が大勢いるということが分かりました。その中で、前回は申し上げましたが、那珂市をもっといろいろな方に知ってもらおうことが、道の駅の一番の役割だと思っています。那珂市にはこれといって真新しいものがなく、その中で唯一あるのがインターチェンジだと思います。インターチェンジ周辺を核とした開発は、とても重要なことだと考えています。

インターチェンジを降りてすぐに目的の場所に着けるとするのは、最大の魅力であり、そこに行けば何かあるということであれば、地域の者もそこを利用していくのではないのでしょうか。

県北地域の玄関口になるという心意気で、インターチェンジ周辺に何らかの施設が整備された際に、インターチェンジを降りたら楽しんでいってもらい、ちょっと時間が余ったら、何らかのアナウンスで、少し先に楽しめるものがある、公園がある、また、那珂市ばかりでなく広域的に考えて、大きな構想で、県北の開発の窓口になっていければよいのではないのでしょうか。そのくらい大きな構想を持っていなければいけないと思います。

那珂市でも、農産物に力を入れているところなので、新しい農産物などをどんどん地域や県内に向けて発信して、人が集まる場所になればよいのではないのでしょうか。特に今コロナ禍で気持ちが沈んでいます。そのような中、こういったことにお金を使うと様々な意見が出るとは思いますが、それは現在であって、私個人としては、コロナ禍は10年、20年先には終息していると思っています。5年くらい先を見据えて、コロナ禍で沈んだ気持ちの中で、何か求めているという時に、地元の方の生きる力になるような建物になるとよいのではないのでしょうか。

○川島委員長

ありがとうございます。そこでしか買えないものや県北地域の玄関としての位置づけというお話をいただきましたが、地域おこしという点も重要だと思えます。入江委員、小林委員、綿引委員から、何かご意見をお願いします。

○入江委員

資料1-1の質問4の結果について、他の年代にはあまり強く出ていませんが、30代の方の集計結果をみると美術館などの娯楽施設が22%と多くなっています。この結果については私も納得しています。美術館は、その時期に話題になるものや、これから先に流行するものを捉えたものが多いと思います。そういうものが地域にあると、その地域は頑張っているなという1つの指標になるのではないかと思います。

さらに、最近はモノを買うのではなく、コトを消費するという時代になっていますので、先ほどの道の駅の資料を拝見しても、施設ごと体験などのコト消費やドッグランの施設などがあり、そういうもので人を集めているのではないかと思います。30代というと、これから結婚をしたり、子どもがいたり、未来がある方達だと思います。これから那珂市の文化を作っていく方達です。ですので、少しの意見かもしれませんが、そういった意見も注視してほしいと思います。

また、資料2-3について、市内産業の活性化や市の魅力発信ということで、市の特産品ブランドの認証品や6次化などのキーワードが入っていますが、私も那珂市に来て特産品ブランドの認証品のガイドブックを拝見したり、6次化はどういうものがあるのか体験させてもらいましたが、当時はあったけれど、今はない商品が多々あります。もし、道の駅のような施設ができて、那珂市の特産品を発信できるなら、新しい6次化商品や那珂市を象徴するようなものを開発していく必要があると思います。

もう1点が、県内のみならず、日本全国の道の駅で、農家さんの人口や6次産業化がどれくらい発達しているのかということと、那珂市と同じような規模のところから発達していった道の駅など、もう少し広い視野に立った比較の仕方も大事なのではないかと思います。

○小林委員

事前に頂いた資料の中で、県内の道の駅の概要の資料を家族と一緒に見ましたが、中でも、子育て世代としては、筑西市の道の駅は行ってみたいと思いました。体験型のいちご農園が附随しているのは大きいと思いますし、天候が悪くても室内で遊べる場所があるというのも大きいと思います。

私個人としては、道の駅ひたちおおたは月に1、2回は利用します。ただし、購入金額は少ないと思います。何のために行くかという、午後にある程度時間があれば、子どもを遊ばせるために利用しています。帰りにアイスを食べたり、足りない野菜があったら買ってきたりということはありません。

○綿引委員

県北地域は就農人口が、若い人も含めてこれからも減っていくのではないのでしょうか。

私は生産者として常陸太田市の方にも行っていますが、常陸太田市の方でも野菜が足りていません。

近隣の市町村から野菜を売りに行くのは、この辺りでは当たり前です。私もそういう関係で使っています。

そこで思うのは、常陸太田市では特徴を出した売り方ができます。

私自身、自分が生産した野菜を使い、他の人とコラボして商品を作ることができないでいました。

私がやっている「フェルミエ那珂」は、他業種の方と手を組んで何かできないかというのが設立の目的だったのですが、最近ようやくレストランなどとコラボ商品ができるようになってきて、そういうものを人に見せる場所が欲しいと感じていました。ですので、他の道の駅を羨ましく感じていましたが、地元でそういったものができれば、地元のレストランにも出せる、我々の名前も出せる、という利点があると思います。

先ほども申し上げたように、これから少なくなる農業者が県北地域で手を組めたらもっとよいのではないのでしょうか。そういう意味で、県北地域の玄関口として那珂インターチェンジ周辺でそういった施設ができれば、魅力を作っていけるのではないかと考えています。

私たちの仕事でいうと、「フェルミエ那珂」が始まって4年が経ちます。ようやく芽が出てきたところでして、若い人もついてきてくれるようになりました。ただし、これからさらに伸ばすには、時間がかかります。そのような中、道の駅の構想ができれば、若い人の励みにもなります。

これから後継者が増えていかなければならない地域です。表現できる場として、そういった施設ができればよいと考えていました。

○川島委員長

ありがとうございます。

防災機能や生活の交流拠点、地域の看板という機能を考えるのであれば、道の駅という枠組みはともかく、単体としては仮に十分な黒字にならなくても公共性はあるのではないのでしょうか。とはいえ、経営の観点も必要ということだと思います。渡辺委員、浅川副委員長の方から何かご意見があれば、お願いします。

○浅川副委員長

アンケート調査の結果をみますと、大体予想通りといった印象です。

私も様々なインターチェンジを見てきましたが、今まで、県内のどこの市町村もインターチェンジの開発をあまり考えていなかったという印象です。

大体、どこも一様に国道沿いにインターチェンジを設置して、それ以外の広大な土地を設けてそこにやるということを含めて考えていませんでしたから、どこの地区も虫食いのような状況となっています。

第1回検討委員会の際に、小林委員から、3世代が、買い物できて子どもが遊べる施設があるとよいという話がありましたが、そういった目玉となる施設を整備しないと、なかなか人は集まらないと思います。

この機会にインターチェンジ周辺地域を何とかしないとなりません。

県の植物園とコラボするのか分かりませんが、他の地区にはない、大きな目玉となるものを那珂インターチェンジ周辺地域の開発に中では考えていかないと厳しいと思います。

ただし、コロナの影響を考えますと、地元の商店は出店を躊躇するのではないのでしょうか。

様々なことを調査して、大きなインパクトのあるものを打ち出さなければなりません。

インターチェンジの周辺地域に物産センターが整備されただけでは、人は集まらないと思います。今後、皆さんで知恵を絞り、目玉となるものを打ち出していければ良いのではないのでしょうか。

○渡辺委員

私は、資料の一覧表に掲載されている道の駅のうち、いくつかの道の駅に関わっております。

総体的に言えますのは、まず、道の駅を整備する場合、地域の何のために道の駅を整備するのかというコンセプトから入り、ビジョンを作るということです。

1つ例を挙げますと、先ほど道の駅グランテラス筑西の話が出ていましたが、グランテラス筑西の整備前から、私は筑西市の観光推進協議会の会長をさせていただいております。筑西市はイチゴのクラスターを作ろうということで、道の駅がオープンする前に、行政がイチゴを農産品の認定商品にしました。そのような中で、道の駅の敷地の後背地に大規模なイチゴのハウスの建設を並行して進めました。

先ほどスターボックスの話がありましたが、道の駅にスターボックスが出店したのは初めてのことで。

なぜ出店したかといいますと、グランテラス筑西の指定管理者は第3セクターですが、駅長は東武百貨店から来られている方であり、東武百貨店はスターボックスと強い関係性がありますので、出店したという経緯があります。あと「お花」という有名なパン屋があります。「お花」とスターボックスが目玉になりましたが、ふたを開けてみたら広場があって、市民の方が週末家族と来る。いろんなイベントもやっている。大道芸人が来る。市民の方々がまず楽しめる。あとは50号のバイパスがあるので、そこのトラックさんが寄る。そのトラックさんの為に何ができるかというコンセプトもある。そうするとこの面積が必要になり、この施設が必要になったという経緯があります。

道の駅をインターチェンジに作って、その先どうするのかということをやはり併せて考えてやっていくというのを、市は考えていると思います。ここにクラスターを作るのかどうかとなると、パンプキンクラスターなのか、植物園とコラボするのであれば植物園にある植物や花、いわゆるプラントであったりフラワーであったり、そういったクラスターを作って産業創造するとか、そういったまずコンセプトとして並行して、物事を考えていきます。

そのきっかけとして道の駅を作ることはよいことだと思います。道の駅がぽつんとできました、残りは田んぼのままという、「あれ？」という感じになると思います。

フラワーパークができて、その間はずっと田園地帯が続いて、たとえば横に植物を作っているハウスが並んでいて、そこで観葉植物が買えるとか、花が買えるとかそういうものができれば、人を集める場所になります。

そういったものと並行して、農振農用地を除外するとか、区画整理など色々な手法はあると思いますが、土地収用法の適用事業であれば、4ha未満の面積は使えると思いますが、4haの面積は道の駅としては広くありません。もっと面積があってもよいと思います。併設する農地を、農地のまま使えることを考えるなど、そういうコンセプトを協議しながらやっていくのがよいのではないかなと個人的には思っているところです。

中には道の駅構想が白紙になった自治体もありますが、やはりそこはベースになったコンセプトがあやふやであったことが一因であると思います。

常総市の場合、民間事業者に委託して道の駅の管理運営をスタートしますが、ベースにあるのは建設会社です。ここはプロジェクトを打診して、アグリサイエンスバレーという農業クラスターをつくらうという構想で進めています。常総市は、もともと農業が盛んな地域で、田んぼのど真ん中に作ったという経緯もあるので、大規模なプラント工場もできるし、養育栽培、野菜・果物類をかなり大量に作ると聞いています。養育栽培は安全・安心な野菜で、子どもさんにも安心して食べさせることができるような野菜を売りにしています。コンセプトが必要であれば、いくらでもデータはとれますし、各道の駅が現状でどうなっているのか、ということについても我々が提供できるので、その辺も含めて協力できればと思います。

植物園や県民の森とあわせてビジョンを作りながら、先に道の駅を整備して、そこから発展させていくというビジョンで進めていければ、市民の方にももう少し分かりやすくなり、我々も応援できるのかなと思います。

○川島委員長

ありがとうございます。コンセプトや目玉となるものについては、引き続き検討すべき課題だと思います。

その他の委員の方から、ご意見等ありましたらお願いします。

○鈴木委員

当JAは、常陸太田市の道の駅や常陸大宮市の道の駅の運営に関わっており、一緒に販売をしています。

そのような中、資料にあります、道の駅第3ステージというところが面白いなと思いました。

これからの道の駅は、道の駅同士が交流し、また、それ以外の事業とも相互に交流するといったことも視野に入ると良いと思います。

東日本大震災の際、停電や水不足など、皆さん生活に不便な思いをしたかと思います。

当時は、地元のコミュニティセンター、市役所が避難所になっていましたが、避難所に行っても食べるものがありませんでした。当時、私は東海村に住んでおり、当JAが運営する直売所を担当しておりましたので、東海村の災害対策課に行き、うちに野菜がある、食べる場所があれば提供できるという話をさせていただきました。

そのような経験をふまえますと、那珂市は、那珂川、久慈川という河川を背負っていますので、水害等を想定し、道の駅の防災機能を充実させることができればよいと思いました。

また、大きな震災等が発生した際には、大きな敷地があり、電力供給機能等を充実させるなど、市民のための施設という形で進めることができたら良いと考えています。

具体的な機能等については、今後の話になると思いますが、市民のための施設という方向で協議していただければと感じています。

道の駅の中身については、有名な店舗を誘致すれば、それなりに集客は見込めますし、収入は得られるのかなと思いますので、那珂市民のための施設という形で考えていただければと考えています。

○浅川副委員長

これは市役所の方へのお願いになりますが、茨城県では県民の森や県植物園のリニューアルをうたっています。

あとは茨城自民党の方で県にあげた、那珂インターチェンジ周辺の開発の推進、それも議会の方から知事へ上がっているので、具体的に情報があれば、一緒に那珂インターも県議会は考えます。県は県で、県植物園のリニューアルについて考えています。そういう情報を一般の方に知らせて、県とコラボできればよいと思います。

○事務局（益子課長）

ありがとうございました。県植物園については、浅川副委員長からお話があったとおり、本年度基本構想策定を行っている状況と伺っています。そこから先の話ですが、費用面やどのくらいの規模にするか、その辺りについては、県の内部で調整している状況でして、その話が進まないと、先に進めないという状況だと伺っています。

なかなか表に情報として出せるようなものがないということで、今日話せるようなことがあれば、県から来てもらうなりして話をしてもらおう、ということも考えたのですが、まだ言えるような状況ではありません。

進んではいるようですが、表立って言えることがありません。我々としても県植物園のリニューアルはチャンスだと思っています。県植物園のリニューアルと上手く組み合わせる施設ということが一番よいと思いますので、県植物園に関する情報もできるだけ市民に向けて発信していきたいと思います。

また、資料1-1の広報なアンケート調査の結果について、那珂インターチェンジで開発を進めることに関する賛否について年齢構成の資料ができたので、お配りいたします。

【追加資料】資料1-1 質問3 年代別クロス集計を配布

○事務局（益子課長）

追加資料のグラフの見方ですが、上が件数で、下が割合を表示しています。

青が進めるべき、赤が進めるべきではないという判断をしているということでございます。

結果をみますと、やはり年齢が若い方については、進める必要がないという意向が少し強いという傾向が見られます。

○川島委員長

ありがとうございました。

それでは、ここまでの議論をまとめると4点くらいになるかと思います。

1点目は、慎重なご意見もありますが、道の駅というコンセプトで引き続き検討を進めるということです。

2点目は、したがって、市の原案通り事業主体は市が望ましく考えられるということです。

3点目は、個別の開発であって、面的な開発ではないということです。ただし、県の植物園や周辺市町村との関係、あるいは農業との関係といった形での周辺の開発・利用と合わせて考えていくべきだと思います。

4点目は、コンセプトを固めていく必要があるということです。市民の利用に重きを置くのか、あるいは外部に重きを置くのか。看板として機能させるのか、目玉を作るのか、あるいは防災機能を整備するのか。

様々な分岐点があるかと思いますが、そこをしっかりと考えていかなければならないと思います。

今の議論を私なりにざっくりとまとめると、こういった形になるかと思いますが、これを踏まえて、何かご意見やご質問がある方はお願いします。

○根本委員

那珂インターチェンジ周辺地域のまちづくりについて、農業委員会の数名の委員から事前に話を聞いておりますので、その中からお話をしたいと思います。

まず、那珂インターチェンジ周辺地域というのは、何も無いところです。

県北の玄関口といわれますが、ここを通過して大子町等の近隣市町村に行き戻ってくる。秋は、観光バスの往来もかなり多いと思います。そういう意味での利用はかなりあると思います。

一方で、農業の面からいうと、特に那珂市の北西部は少子高齢化で遊休農地が多くなっています。そのような中で、これから農業とインターチェンジのコラボにより地域の活性化を図っていく場合、やはり道の駅のような施設を活用し、農業を活性化させていかなくてはならないと思います。

ただし、目的地となる道の駅なのか、あるいは通過点となる道の駅なのか、この2つが大きいと思います。

那珂インターチェンジ周辺地域で考えますと、目的地に通過点にもなり得ます。ですので、両方の面を備えた拠点でなくてはならないと思います。

もう1つが、若い方が集まる場所にしてはどうでしょうかということです。

この辺にはないような、趣味を目的とした、例えばスケボーをやるような運動場、練習場といった、周辺地域にはないようなエリアにしてはどうか。ボルダリングなどもあっても良いと思います。

もう1つは観光農園です。那珂市の場合にかぼちゃくらいしか特産となる農産物がありません。特産物が少ない状況です。ですので、他の特産物を作りつつ、収穫体験ができる施設が必要だと思います。

先ほど話があったように、イチゴなどの収穫体験ができるような、農地を利用した拠点も必要だと思います。

○川島委員長

その他、國井委員、海野委員、檜山委員の方から、ご意見等ありましたらお願いします。

○檜山委員

アンケートでいろんな意見が出ていますが、10,000名以上の方に回答をお願いした中で、537名の回答結果というのは少ないと思います。その中でもまちづくりを進めるべき、というのが多く、また、那珂インターチェンジ周辺地域にあってほしい施設について、道の駅・物産館が多数を占める結果となったようですが、那珂インターチェンジを降りた先は、芳野地区になります。北の玄関口と言われますが、周辺地域には特に何もありません。何か施設があれば人が寄ってくると思います。少し行くと、芳野直売所があり、農産物を販売している方もいますが、やはり生産者の方が高齢化しているということで、商品が揃いません。

ですので、道の駅のような施設があれば何か起きるのではないのでしょうか。施設を整備し、人を集めるということは、これから地域を活性化するには必要だと思います。一条院が骨董市を月に1回やっているが、多くの方が集まり、車が通り抜けできないような状態です。これから県民の森、鳥獣センターがリニューアルオープンする計画があると伺っています。私は県植物園の近くに住んでいるので、植物園周辺をよく散歩しますが、いつも車が30台ほど停まって、中高年の方が散歩している状態です。ですので、そういう施設ができれば、人が寄ってくると思います。この先、そこでいろいろなことが生まれてくるのではないかと期待していますので、今後、まちづくりを

進めていった方が良いのではないかと思います。

○海野委員

何かがきっかけで今まで目玉だったものがなくなってしまうということではなく、いつまでもあり続けるものを作っていければよいと思います。

那珂市は、かぼちゃだけでなく、ズッキーニも生産高が高いですし、ケールを栽培している農家の方もいますので、目玉になる農産物はたくさんあると思います。そういったものを市場に出していけたらよいと思います。

○國井委員

弊社には那珂インターチェンジを降りて来られるお客様が多い状況です。また、大子町やひたちなか市を往訪する予定の方によくお越しいただいております。

そのような中、お客様から頻繁に、那珂市内でお土産を買えるところはどこか尋ねられますが、市内に案内する場所がないのが実情です。

茨城県を訪れる方の多くは、田舎だから野菜がたくさんあるのではないかと期待されますが、那珂市内では、野菜を買えるのはスーパーなどの施設に限定されてしまいます。ですので、那珂市のものが集まって買える施設があれば良いと思います。

県外から来られた方や地元の方が利用できるものがあればよいと思いますが、資料をみますと、県内の道の駅しか見ていないという部分は一番考えるところだと思います。県外の道の駅などを見ても良いのではないのでしょうか。また、先ほどボルダリングなどがあっても良いという意見がありましたが、最近オープンした渋谷の「MIYASHITAPARK (ミヤシタパーク)」はコーヒーショップがあり、ボルダリングができるなど、狭いスペースであったとしても、できるものは十分にあります。幸にも那珂市は大きい土地がありますので、そういったところを見ながら、様々なことができるというコンセプトがあっても良いのではないのでしょうか。

○川島委員長

ありがとうございます。その他、ご意見はありますか。

やはりコンセプトをしっかりと固めていくという事を検討する必要があると思います。

全体の方針として道の駅という方向性で、今後も検討していくということで、よろしいでしょうか。

(各委員了解)

それでは、議論自体はここで閉じたいと思います。

今回ご協議いただいた内容を踏まえ、次回の第3回検討委員会でまちづくりの方向性を取りまとめ、検討委員会としての方針を決定していきたいと考えています。引き続き、よろしくお願いいたします。

○事務局 (益子課長)

川島委員長、ありがとうございました。

それでは、次第の4番、その他でございます。

今後のスケジュールでございますが、次回の第3回の検討委員会は、2月12日金曜日の午後3時から、場所は同じで、この全員協議会室で開催を予定しております。

詳細は、追ってご通知申し上げますので、よろしくお願いいたします。

なお、先ほど、川島委員長からもありましたとおり、今回は「検討委員会としての方針」を決定していただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 (益子課長)

それでは、長時間にわたりまして、慎重なご審議ありがとうございました。

以上をもちまして、「第2回 那珂市 那珂インターチェンジ周辺を核とした活力あふれるまちづくり検討委員会」を終了いたします。本日は、お疲れ様でした。

以上